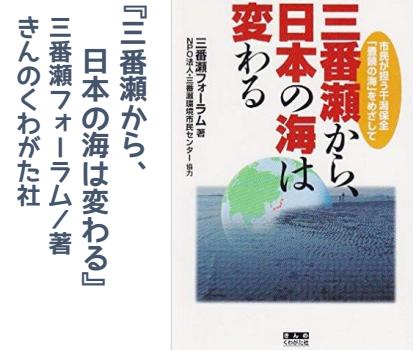


「誰か×誰か」「誰か×何か」の組み合わせが面白い。

小学生 × 宿題

『文房具図鑑 その文具のいい所から悪い所まで最強解説』
山本 健太郎/絵・文 いろは出版



図書館職員がやってみました！

「三番瀬から、日本の海は変わる」
三番瀬/著
きんのくわがた社

クイズにこたえて、図書館でプレゼントをもらおう。

もんたい:「梅雨」の読み方はなんでしょうか?

① だし ② つゆ ③ しる

こたえ: _____

小学6年生の宿題が、1冊の本になりました。その名も『文房具図鑑』。文房具好きの著者が夏休みの自由研究で作ったもので、文房具の特徴や使い心地が細かく解説されています。全ページ手書きで、掲載アイテム数はなんと168個！懐かしの定番品から新製品まで、大人も子どもも楽しめる内容です。室内で過ごすことが増える梅雨の季節に、お気に入りの文房具を見つけてみてはいかがですか。（沼田）



干潟から海の環境問題を考える

私は東京湾の遠浅の海や干潟がもたらす恵みを受け取っていましたが、経済成長に伴う開発埋立によって海はコンクリートで囲われ、遠ざかっていました。

この本は海の生物だけでなく野鳥の宝庫でもある干潟、三番瀬が開發のため消失する危機に際して、開発と保護という対立ではなくて『環境保全』から計画の見直しを様々な関係者が考え、活動していく経緯を綴ったドキュメンタリーです。「三番瀬から日本の海は変わる」というタイトルは豊かな里海を次世代に残さなければ、という強いメッセージが込められています。あだち再生館の図書コーナーに置いてありますので、ぜひどうぞ。

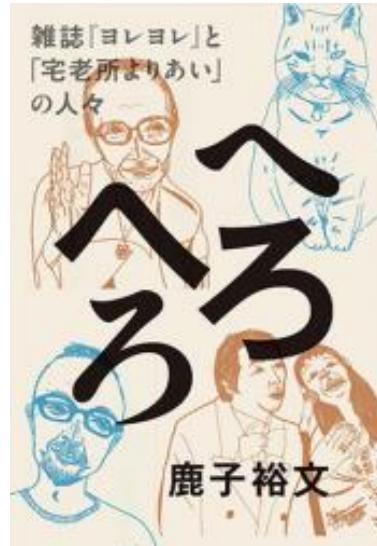


Vol.14



『かさの女王さま』
シリン・イム・ブリッジズ/文 セーラー出版

館長が紹介する
「印象に残った1文」とは？



『へろへろ 雑誌「ヨレヨレ」と「老宅所よりあい」の人々』
鹿子 裕文/著 ナナロク社

やよい
TOPIX

私たち、いつから老いるの？
がこんなに怖くなってしまったので
しょう。「老後」という言葉からは、
暗いイメージがはじめ出てくるよう
です。しかし、この本から感じるのは
あふれるばかりの明るいパワー。「宅
老所よりあい」には困ったお年寄り
がたくさんいるし、お金も設備もあ
りません。それでも、ここに登場す
る人々はなぜかとても前向きで、
常に前に進み続けます。それを読
んでいるうちに、こちらもその明るい
力に引き込まれてゆくのです。老後
について、人と人のつながりについて、
捉え直すための1冊。（丸山）

記念日から見つける、とっておきの1冊。



舞台は文政の江戸。貧乏長屋で、ひょろりと瘦せた風貌が一見頼りなさそうに見えますが、実は人の心に潜んだ虫を封じることができます。この男、薄羽影郎と言いう名の住み着いた影郎と、その助手になつお夕の虫退治がはじまります。医療、妖怪、ミステリーに加え、読み終わった後に心がほっこり温まるよ

うな人情話が持ち味の時代小説です。（竹原）

『虫封じ』
立花 水馬/著 文藝春秋

こんな本もありますよ 『すごい虫の見つけかた』
海野 和男/写真・文 草思社

『ちょうどよ』
江國 香織/文 白泉社

6月4日は「ムシの日」ということ

で、今回は虫にまつわる本を紹介します。この『虫封じ』(ます)に出てくる虫は普通の虫ではありません。

6月4日は「ムシの日」ということ

で、今回は虫にまつわる本を紹介します。この『虫封じ』(ます)に出てくる虫は普通の虫ではありません。